

ISO 認証機関

ASR エイエスアール 通信

<https://www.armsr.co.jp/>

2025 June
VOL.46



■ エイエスアールのお客様紹介

株式会社かまいしDMC様

p.2-3

■ ISO9001規格要求事項の勘違い Vol.2

p.4-5

■ ASR博士の環境レポート

気候変動と企業の社会的責任（CSR）

p.6

■ 企業向けISO関連教育サービス

p.7

■ 組織様向け情報

p.8

株式会社かまいしDMC様 (岩手県釜石市)

今回は、釜石市の観光地域づくり法人（DMO）である「株式会社かまいしDMC」様をご紹介します。

同社は、地方創生の柱として、新たなスタイルの観光地域づくりに積極的に取り組まれています。とりわけ、釜石市が推進する観光を通じて地域の持続可能性を高める「サステイナブル・ツーリズム」をけん引されている組織様です。

今回は、経営企画管理部長 兼 財務責任者（CFO）である大杉尚也様に、お話を伺いました。



経営企画管理部 財務責任者(CFO)
大杉 尚也 様

―御社の事業内容について、概要をお話いただけますか

現在の事業として主たるものは3つあり、1つ目はふるさと納税の事業委託を市から受けています。これは当社の事業の軸となっていて、釜石の名産品などを扱っています。それ以外にもオンラインショップや、地元の食材を使ったオリジナルのジェラートの販売なども行い、釜石の特産品の販路拡大を図る事業です。

2つ目が旅行関係で、観光客向けの体験プログラムや、防災を中心とした教育プログラムなど教育旅行の受入も行っています。ここ数年では首都圏からのワーケーションや企業研修などのニーズが非常に高まっており、企業様のニーズに合ったプログラムを提供しています。

3つ目は釜石市からの指定管理業務として、飲食店がある観光施設や、東日本大震災の震災伝承施設など4施設の管理業務を行っています。

観光庁が観光を軸として地域の活性化を図るための組織「観光地域づくり法人（DMO）」を全国的に作ろうという施策を打ち出す中で、釜石でもその司令塔となる組織が必要だということで準備委員会を釜石市が立ち上げました。この準備委員会での検討を経て、釜石市や市内金融機関などの出資を受け、2018年に「株式会社かまいしDMC」としての活動をはじめました。

―震災からの復興も含め地域づくりを目指しているという感じでしょうか

震災前から地域としても高齢化や人口流出といった問題を抱えており、釜石市全体として活力が下

がっている傾向はありました。

震災の影響もあり、釜石を活気づけるためには、釜石への来訪者が、一度来ていただくだけでなく、地域に愛着を感じていただいて、移住とまではいかなくても、また行ってみようと思うきっかけ作りをして、つながり人口(地域と密接な関係を持つ人々)を増やしていく施策は必要でした。

かまいしDMCが旗振り役になって、観光地域づくりを進めることで地元を元気にするとともに観光を盛り上げていきたいと考えています。

―事業を始めて8年目ですが、成果や手ごたえのうなものは感じておられますか

やはりつながり人口が確実に増えているというのは感じます。たとえば企業研修で釜石に来られた方が、次はプライベートで訪ねてくれるといったような継続的なつながりが少しずつですが確実に増えていると思います。



また、実際に来訪し、釜石の物産を知ってくださった方が、次はふるさと納税やオンラインショップで商品を購入してくださるような流れもできてきて、観光と物販の両輪で地元の経済が回り始めていると感じています。

—ISO関係のお話も伺わせてください。2018年に会社を立ち上げられて2019年にはISMSの認証を取得されています。そもそもISMSを取得されたきっかけは何だったのでしょうか

市のふるさと納税業務を受託するために、お客様の個人情報扱う上で情報セキュリティについての仕組みづくりが必要だろうと考えました。当時はスタッフも少なかったのですが、まずはそれぞれの意識を高めることで会社としての基礎を固めるという目的もありました。まだ会社も立ち上がったばかりだったので1から仕組みを作れたのはよかったと思います。

—取得のメリットなどありましたか

市から継続的に業務の委託を受けている中で情報セキュリティについてこのような取り組みをしています、ときちんと説明ができることで信用が得られるという点はあると思います。

オンラインショップなども運営していく中でお客様の情報をきちんと管理して守っていくというのは非常に大切なことです。社員一人一人の意識の向上にも役立っていると考えています。

—維持するうえで意識されていることはありますか

今お話ししたように1番は社員の意識の向上だと思っています。なんのためにISMSの仕組みを導入しているのか、やらされているのではなく一人一人が目的をもって情報をあつかっていくということが大切だと思っています。そのためには全社会議での勉強会や、年に2回は社員全員に情報セキュリティのテストを実施するなど理解を深めてもらう機会を設けています。

—今後の取り組みなどはお考えでしょうか

弊社にとどまらず、市内の他の事業者さんにもISMS、情報セキュリティというものについての意識を高めてもらいたいと考えています。

いまは近隣の小さな商店のようなところでもオンラインで商品を販売していますが、情報セキュリティについてはまだまだ理解が広まっていないように感じます。

認証を取るというよりもISMSを通じて情報の取り扱いの重要さを理解してもらい、信用を上げていくことができるとよいなと思います。

—ASRの審査はいかがでしょうか

情報セキュリティは自分たちの中で考えているだ

けではなく、第三者の方にチェックしていただくというのは大切なと感じています。

自分たちで

PDCAを回して取り組んでいる活動についても、審査を受けることで一度立ち止まり、見直すことができる点にメリットを感じています。

また、審査員の方々は私たちの会社に寄り添いながら、事業内容をしっかりと理解したうえで対応してくださっており、単に情報セキュリティの観点だけでなく、「こうした取り組みが可能ではないか」「このような視点も必要ではないか」ということにつながるヒントもいただけるため、非常にありがたいと感じています。



—事業として今後目指していきたいところはありますか

地域全体が活性化していくことを目指しているので、当社だけが儲かるということではなく、当社が起点になって、地域の事業者さんみんなが稼げるまちづくりをしていきたいと考えています。

その方法の一つが観光です。「観光ってすごいんだ」ということを地域の方々に実感していただいて、地域の皆さんが自らのまちに対する理解と愛着を持てるまちづくり、仕組みづくりを進めていきたいと思っています。

—最後に会社のPRをお願いします

最近是人材育成を目的とした企業様向けの研修のほか、地域づくりを学びたいという方々への研修の受け入れなどをおこなっています。一度お越しいただいた企業様が継続して利用いただけるような、釜石ならではの様々なプログラムを提供しておりますので社内研修などをお考えの場合はぜひお声掛けください。

また、ぜひ観光で足を運んでいただいて、釜石の美しい景色やおいしい食材を楽しんでいただければ嬉しいです。

震災からの復興、人口減少といった課題に正面から取り組み、釜石というまちの未来を豊かなものにしていこうという強い想いを伺うことができました。お忙しい中ありがとうございました。

当コーナーでは、弊社の登録企業様のISO活動や事業をご紹介します。事業への思いや取り組みなどについて、PRしてみたい企業様は、是非、下記宛にご連絡ください。
ASR通信 事務局 E-mail: otoiawase@armsr.co.jp

ISO9001 規格要求事項の勘違い

Vol.2

1. はじめに

組織がISO 9001の要求事項を正しく理解できていないため、プロセスを効果的に運用できていない事例が中小企業に多く見受けられます。このため、特に理解不足している要求事項について、その要求事項の意図を明確にし、これに関する管理技術を明示することでISO9001の要求事項の理解を深めることを目的としたシリーズの第2回です。よくある勘違いと正しい理解を解説します。

2. 「4.3 品質マネジメントシステムの適用範囲の決定」

勘違い QMSの適用範囲への適用が不可能である要求事項について、その正当性を示すには、その項番だけを示せば十分である

正当性とは、客観的に見て根拠があることを示すことです。したがって、適用できない要求事項が存在する場合には、根拠を示す必要があります。組織にその機能を果たす能力がないから適用できないとすることは間違いです。

例：製品・サービスの設計開発の活動はあるが、ISO 9001の要求事項を満たすだけの能力がないので、8.3を適用できないと宣言することはできません。しかし、顧客から図面が提示されて、図面通りに製造している場合には、8.3が適用できないと宣言することはできます。

3. 「4.4.1 ～品質マネジメントシステムを確立し、実施し、維持し、かつ、継続的に改善しなければならない」

勘違い 品質マネジメントシステムを継続的に改善するということはパフォーマンスを向上するというものである

継続的に改善するとは、パフォーマンスを向上するための活動を繰り返し行うことであるので、例えば、方針管理（PDCAサイクル）、日常管理（SDCAサイクル）、その他の改善活動（プロジェクト活動、小集団活動など）でプロセスを継続的に改善していく活動を行うという意味です。したがって、パフォーマンスそのものを向上する（例：工程内不適合品率を0.05%から0.03%にする）ということではありません。

4. 「6.1.1 ～次の事項のために取り組む必要があるリスク及び機会を決定しなければならない」

勘違い a) ～ d) に取り組む必要があるリスク及び機会を一覧表にまとめなければならない

a) ～ d) のために取り組む必要があるリスク及び機会を決定しなければならないことが要求事項であり、一覧表にまとめる必要はありません。一般的には、事業計画を立てるときにQMSに関する計画を策定し、それを実行する際に、どのようなリスク及び機会があるかを決定すればよいです。

リスクとは、「施策を実行する際にどのような“好ましくない結果”が現われるか」であり、事業活動にとってマイナス方向の意味です。一方、機会とは、「施策を実行する際にどのような“好ましい結果”が現われるか」であり、事業活動にとってプラス方向の意味です。

なお、ISO 9000では、リスクの定義は次のように規定されています。

3.7.9 リスク (risk)

不確かさの影響。

注記1 影響とは、期待されていることから、好ましい方向又は好ましくない方向にかい（乖）離することという。

注記2 不確かさとは、事象、その結果又はその起こりやすさに関する、情報、理解又は知識に、たとえ部分的にでも不備がある状態をいう。

注記3 リスクは、起こり得る事象（JIS Q 0073の3.5.1.3）及び結果（JIS Q 0073の3.6.1.3）、又はこれらの組合せについて述べることによって、その特徴を示すことが多い。

注記4 リスクは、ある事象（その周辺状況の変化を含む。）の結果とその発生の起こりやすさ（JIS Q 0073の3.6.1.1）との組合せとして表現されることが多い。

注記5 “リスク”という言葉は、好ましくない結果にしかならない場合に使用されることがある。

5. 「6.1 リスク及び機会への取組み」

勘違い 6.1を実施するためには、リスクアセスメントを行う必要がある。

要求事項をみるとリスクアセスメントを行うという要求事項は含まれていません。ここでは、QMSの計画の方策を進める際に、どのようなリスクや機会があるかを決定して、それに対する取組みとその取組みをどのプロセスで行うのか、また、その取組みの成果をどのような方法で評価するのかについての計画を行う仕組みが要求されています。

したがって、リスク及び機会への取組みに関するプロセスをどのように構築するかは組織が決めれば良いので、ISO 31000（リスクマネジメントー指針）で示されている要素を必ず適用する必要はありません。

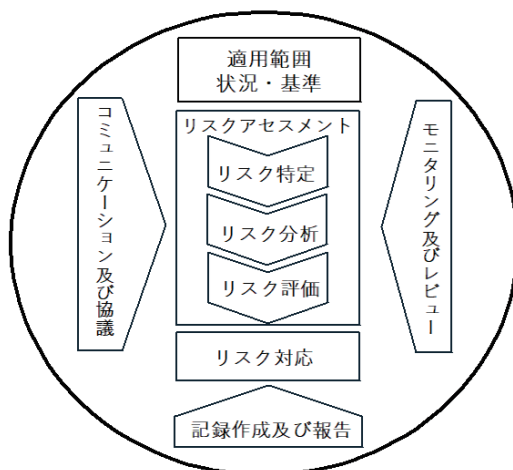


図.1 リスクアセスメントの考え方 (ISO 31000)

6. 「6.1.1 b) 望ましい影響を増大する」

勘違い 望ましい影響を増大するとは機会のことであるので、リスクは決定する必要はない

この要求事項は、望ましい影響を増大するために取り組む必要があるリスク及び機会を決定しなければならないとしています。

望ましい影響を増大するために取り組む例として、「新技術に対応可能な設備を導入する」とした場合には、リスクと機会には次の事項があり得ます。

⇒リスク：導入時期が予定より遅れる、要員の新技术対応能力が追いつかないなど

⇒機会：品質のパフォーマンスが向上するなど

7. 「6.1.1 d) 改善を達成する」

勘違い 改善を達成するとは、品質目標を達成することである

改善を達成するとは、「パフォーマンスを向上するための活動を達成する」ということです。したがって、パフォーマンスを向上するための活動を達成するために必要なリスクと機会を決定する必要があります。例えば、プロジェクト活動、小集団活動などが計画通りに行われるためのリスクと機会を決定することが該当します。

8. 「6.3 変更の計画」

勘違い 変更には、手順の改訂も含まれる

ここでは、品質マネジメントシステムの変更に關する要求事項を示しています。品質マネジメントシステムの定義は、「品質に関する、方針及び目標並びにその目標を達成するためのプロセスを確立するための、相互に関連する又は相互に作用する組織の一連の要素」です。したがって、この定義から考えると、QMSの組織体制の変更、適用範囲の変更などが対象になります。

なお、要素とは、組織の特性が、成立するために欠くことのできない基本的な部分のことをいいます。

福丸 典芳 氏

(株)福丸マネジメントテクノ代表取締役

著者紹介

日本規格協会品質マネジメントシステム国内委員会の委員を務め、ISO 9001の規格作成にも携わる。

コンサルティング業務、講演会・研修会の実施、書籍の執筆など多方面で活躍。

近著に「ISO統合マネジメントシステムの構築と内部監査の実践」がある。



気候変動と企業の社会的責任（CSR）

1.はじめに

地球温暖化をはじめとする気候変動は、異常気象や海面上昇、自然災害の増加など、地球規模で深刻な影響を及ぼしています。これらの問題は私たちの生活にとどまらず、企業活動にも大きな影響を与えており、企業の社会的責任（CSR）としての気候変動対策が重要性を増しています。

ISOは2024年2月、すべてのマネジメントシステム規格に対して気候変動対応に関する要求事項を追補として追加し、企業が気候変動への対応を社会的責任の一環として実施するよう促しています。

2. 企業の社会的責任（CSR）とは？

CSRとは、企業が利益の追求だけでなく、環境保護や地域社会への貢献、公正な労働環境の提供、法令遵守、倫理的経営などを通じて、社会全体に対して責任を果たすことを指します。中でも、気候変動への対応はCSRの柱として強く求められており、持続可能な社会を築くために企業の積極的な取り組みが不可欠です。

3. 気候変動が企業に与える影響

気候変動が企業に与える影響は大きく分けて直接的と間接的に分類されます。

直接的な影響としては、異常気象による工場の損壊や生産活動の中断、農作物の不作、水資源の枯渇などがあり、企業の事業継続そのものにリスクをもたらします。

一方、間接的な影響には、環境規制の強化、カーボンプライシング制度の導入、温室効果ガス排出削減への国際的合意の進展が挙げられます。たとえばEUでは厳しい排出基準が設けられており、企業はこれに対応する必要があります。また、ESG（環境・社会・ガバナンス）を重視する投資家が増えており、環境配慮が企業の評価に大きく影響する時代になっています。消費者の間でも環境意識が高まり、持続可能な製品やサービスを選ぶ傾向が強まっています。

4. 企業による気候変動対策

このような社会的・経済的背景の中で、企業は様々な気候変動対策に取り組んでいます。

第一に重要なのは、温室効果ガス（GHG）の排出削減です。企業はエネルギー効率の向上、省エ

ネルギー機器の導入、再生可能エネルギーの活用などを通じてCO₂排出量の削減を図っています。さらに、排出削減が難しい部分については、カーボンオフセットの手法を活用し、森林保全や再生プロジェクトへの投資によって排出量の相殺を進めています。

第二に、サプライチェーン全体での環境負荷の低減も重視されています。原材料の調達から製品の使用・廃棄に至るまで、すべての工程で環境への影響を最小限に抑える努力が求められています。たとえば、環境に優しい素材の選定、取引先に対する環境基準の導入、廃棄物の再利用やリサイクルの促進などが実施されています。

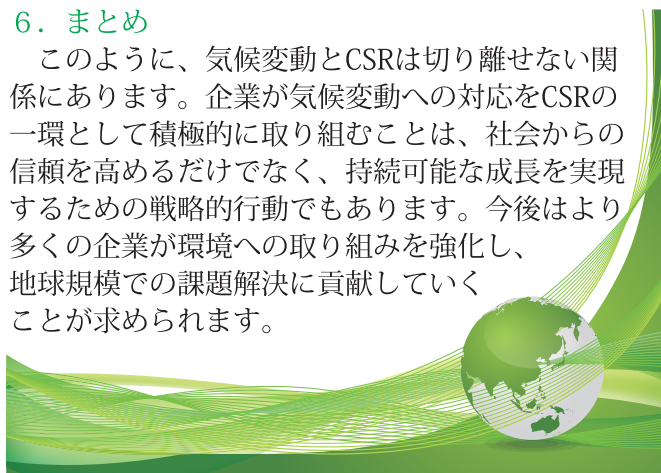
第三に、気候関連リスクと機会に関する情報の開示も進められています。TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の枠組みに基づき、企業は自社の気候変動に関するリスクや対策について透明性のある報告を行うことが求められています。これは投資家や消費者との信頼関係を構築するうえでも重要です。

5. CSR活動と企業の競争力

こうした気候変動への対応は、単なるリスク管理にとどまらず、企業の競争力向上にも直結します。環境への配慮を強化することにより、企業はブランドイメージを向上させ、環境意識の高い消費者や投資家からの支持を獲得することができます。また、エネルギー効率の向上や資源の無駄を減らすことでコスト削減も可能となり、経営の安定化にも寄与します。加えて、環境対策を重視することでESG投資を呼び込み、資金調達の面でも有利な立場を築くことができます。

6. まとめ

このように、気候変動とCSRは切り離せない関係にあります。企業が気候変動への対応をCSRの一環として積極的に取り組むことは、社会からの信頼を高めるだけでなく、持続可能な成長を実現するための戦略的行動でもあります。今後はより多くの企業が環境への取り組みを強化し、地球規模での課題解決に貢献していくことが求められます。



エイエスアール主催

企業様向け ISO 関連教育サービス

決まった時間に講師が解説するセミナーと、自由な時間に自分のペースで学べる学習動画（e-ラーニング）が、自分のスタイルに合わせて選べます。

▶ ISO関連セミナー（2025年6月～2025年8月）

内部監査員養成セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

1日/2日

ISO 規格要求事項の解釈、内部監査員に必要な基礎知識と技能を実践的な講義と演習で学習します。

集合セミナー

1日

品質	東京	6月 25日(水)	環境	東京	6月 26日(木)
	名古屋	7月 8日(火)		名古屋	7月 24日(木)
	大阪	7月 23日(水)		大阪	8月 21日(木)
		6月 18日(水)			7月 4日(金)
		7月 3日(木)			7月 18日(金)
		6月 19日(木)			6月 24日(火)
		7月 17日(木)			7月 22日(火)

2日

品質 名古屋 7月 30日(水)～7月31日(木)

URL https://www.armsr.co.jp/asr_pc/internalaudit/internalaudit.html

ISO 入門セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

半日

「ISO とは何か」から始まり、マネジメントシステム規格がどのようなものかといった、ISOの基礎を解説するセミナーです。

WEBセミナー

品質	7月 28日(月)	時間
環境	7月 7日(月)	9:00～12:00
情報	8月 4日(月)	

URL <https://www.armsr.co.jp/mss11.html>

規格ポイント解説セミナー 半日

ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

規格要求事項のポイントについて、半日で解説するセミナーです。規格要求事項を勉強したいがあまり時間が取れない方にお勧めします。

WEBセミナー

品質	7月 28日(月)	時間
環境	7月 7日(月)	13:30～16:30
情報	8月 4日(月)	

URL <https://www.armsr.co.jp/mss20.html>

環境側面解説セミナー

1日

ISO14001においてシステム構築の基本となる環境側面について、抽出から決定までのプロセス等をわかりやすく解説するセミナーです。

集合セミナー

日程 6月30日(月)

URL <https://www.armsr.co.jp/mss12.html>

規格要求事項の解説セミナー ISO9001・ISO14001

1日

規格要求事項について、各箇条の意図や要求事項を満たすためにすべきことなどを解説。要求事項について理解を深めるためのセミナーです。

集合セミナー

品質	6月 16日(月)
環境	8月 27日(水)
URL	https://www.armsr.co.jp/mss21.html

講師派遣型セミナーのご案内

講師が組織様にお伺いし、セミナーを行う「講師派遣型(出張)セミナー」も承ります。

「決まっている日程や場所では参加しにくい」という組織様におすすめのセミナーです。

詳細につきましてはホームページにてご確認ください。
https://www.armsr.co.jp/asr_pc/onsite/

▶ ISO 学習動画 (e-ラーニング)

新規講座が順次開講し、約30本のコンテンツをご用意しています。新入社員むけの社員教育プログラムもどうぞご利用ください。

講座名	視聴時間
ISO関連講座(下記以外にも20以上の講座がございます)	
ISO入門セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001	1.5時間
規格ポイント解説セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001	2.5時間
内部監査員 養成講座 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001 (※修了証発行)	6時間

 ピーター・F・ドラッカーのマネジメント理論とISO9001	4.5時間
ISO 9001の要求事項と関連するドラッカーのマネジメント理論を学びます。戦略計画に焦点を当て、方針や戦略を示す重要性や、仕事の生産性を向上させるための方法など、効果的な組織運営やプロセス管理に必要な要素を包括的に解説します。主に経営層や部門管理者、ISOを取得している企業の方へ向けた講座です。	

URL <https://www.armsr.co.jp/websemi.html>

※視聴時間は、おおよその時間です。規格によって若干異なります

セミナーや学習動画の詳細と最新情報は、ASRトップページのオレンジ色のバナー（下図）かURLからご確認ください。
※お申込みはホームページのWEBフォームからお願いいたします。

<https://www.armsr.co.jp/ac/>

セミナー・学習動画(e-ラーニング)に関するお問い合わせはこちら
TEL:03-3666-8624 E-mail:seminar@armsr.co.jp



いつでもどこでも、パソコンやスマートフォンで、空いてる時間に、
自分のペースで、何度でも繰り返し学習できます。

QMS/EMS
ISMS/OH&SMS

ISO 入門セミナー

ISOを初めて学ぶ方に、「ISOとは何か？」から
規格要求事項について概要を解説します。



QMS/EMS
ISMS/OH&SMS

規格ポイント解説セミナー

規格要求事項の用語や意味について、
ポイントを短時間で解説します。



QMS/EMS
ISMS/OH&SMS

内部監査員養成講座

内部監査員として必要な基礎知識、規格要求
事項の概要と監査技術を学べます。



発行済

ピーター・F・ドラッカーの マネジメント理論とISO9001

ISO9001の要求事項と関連するドラッカーの
マネジメント理論を解説します。

タイプ	形式	内容
タイプ A	動画	マネジメント理論の基礎知識
タイプ B	動画	マネジメント理論の応用知識
タイプ C	動画	マネジメント理論の実践知識
タイプ D	動画	マネジメント理論の発展知識

QMS/EMS/ISMS/OH&SMS

ISO 基礎講座プログラム セット

- ・ISO入門セミナー
- ・規格ポイント解説セミナー
- ・内部監査員養成講座

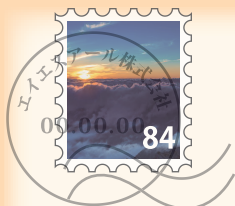
上記がセットになったパッケージです。

※EMSセットには「環境側面解説セミナー」が付きまます。

お申込みURL <https://www.armsr.co.jp/websemi.html>

ASR 学習動画

検索



エイエスアールの スタッフ紹介

日々挑戦！

いつもお世話になっております。営業部の赤石澤と申します。

現在、ISOの取得をご検討されているお客様や、すでにISOを運用
されているお客様を訪問し、課題やお悩みをお伺いしたうえ
で、それらを解決するためのサービスをご提案しております。

日々お客様と接する中で強く感じるのは、中小企業の皆さまが
抱える課題の多様さです。人手不足、業務の標準化の難しさ、デ
ジタル化の遅れなど、状況や業種によってさまざまな課題があり
ます。一方で、「社員にもっと快適に働いてもらうために、こん
な仕組みを導入したい」「顧客や取引先との関係をより良くする
ために、こんな改善が必要だと考えている」といった、前向きな
想いや取り組みを直接お聞きする機会も多くございます。そのよ
うなお話を伺うたびに、私自身も「お客様のお力になりたい」と
いう思いを強くし、どうすれば最善のご提案ができるかを日々考
え、行動しております。



氏 名：赤石澤 謙吾（あかいしざわ けんご）
所 属：営業部
趣 味：365日筋トレ・草野球・妻と映画

さて、私事で恐縮ですが、趣味は筋力トレーニングで、日課と
してジムに通っています。筋トレを行う上で意識していること
は、「日々記録更新にチャレンジすること」です。筋肉は、限界
まで負荷をかけて初めて成長するものです。だからこそ、毎回の
トレーニングで少しでも記録を更新しようと取り組んでいます。
仕事においても同じく、常に自分自身に挑戦し、お客様のお役に
立てよう最善を尽くす姿勢を大切にしております。

まだまだ未熟な点多々ございますが、微力ながら中小企業の
皆さまの成長と発展に貢献できるよう、これからも日々精進して
まいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

発行元：エイエスアール株式会社

本 社：〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-10-15
TEL 03-3666-8757(代) 03-3666-0478(営業部)

名古屋支社：〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-2-5
TEL 052-533-1822

名古屋第二支社：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-3-26
TEL 052-211-7102

大阪支社：〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-5-16



品質・環境・労働安全衛生 情報セキュリティ

★次回発行は2025年10月の予定です。(年4回発行)
皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。

E-mail otoiawase@armsr.co.jp

ASR ISO

検索